

平成29年度補助金等支出明細書

一般財団法人 日本食生活協会

1. 補助金等の名称	感染症予防事業費等補助金（地域の健康増進活動支援事業）		
2. 事業の目的及び内容	生活習慣病予防のための減塩推進スキルアップ事業		
(1) 目的	<p>平成29年度も、若者・働き世代へのアプローチを拡大し若い時からの生活習慣病予防を強化した。</p> <p>近年、生活スタイルの多様化に伴い食の欧米化や孤食化、簡便化など食生活の乱れが問題になっている。特に、若者世代に生活スタイルの乱れや朝食欠食・野菜不足しているのが現状である。平成27年度国民健康・栄養調査によると朝食の欠食率は、全国平均が男性14.3%、女性10.1%で、中でも最も欠食率の高い世代は男性の30歳代、女性の20歳代であり、4人に1人が朝食を摂っていないと報告されている。</p> <p>平成28年度「第1弾」として第3次食育推進基本計画で取り上げられた若者・働き世代を対象を広げ朝食欠食の解消と食事バランスの必要性について普及を行い、結果、高校生や大学生、企業等やジュニアアスリートの保護者、婚活事業とタイアップして実施した報告があった。特に、学生を対象とした活動は全国で展開しており、平成29年度「第2弾」では若者向けの活動は高校・大学・専門学校等を対象に出前講座を実施した。</p> <p>また、成人（働き世代）・高齢世代においては、生活習慣病予防が重要であり、一次予防の取り組みとして、「減塩」と「野菜350g摂取」の普及を引き続き行った。特に高齢者は「フレイル（高齢者の虚弱）」を正しく理解させ低栄養・ロコモ・認知症予防に組み込み、併せて単身世帯の孤食の改善にも力を注いだ。</p> <p>また、減塩普及活動の家庭訪問の成果は大きく、明らかに減塩に対する意識の高まりと実践の成果が見られたが、平成28年度国民健康・栄養調査では食塩摂取量9.9gと依然高いことが発表されていることから未訪問地域への訪問活動を引き続き行い、併せて、訪問活動は、地域の人と人とのつながりにも一役を成していることで家庭訪問の声かけにも平行して進めた。</p>		
(2) 具体的な内容	<p>生活習慣病予防のための減塩推進スキルアップ事業（第2弾）</p> <p>1）運営委員会 事業の企画・運営等について協議した。</p> <p>2）全国各県協議会代表者説明会 各県協議会代表者を集め、事業の主旨を説明し、活動内容の共有・情報交換を行った。</p> <p>3）県協議会市町村単位説明会 各市町村協議会長を集め、（2）において周知された事業の主旨を説明し理解を図り活動内容の共有・情報交換を行う。</p> <p>4）【若者（学生）世代向け】朝食欠食の解消＆食事バランス講座 この世代は特に朝食の欠食率が高い傾向にあるため「朝食欠食の解消」と「食事バランスの必要性」を重点に講習会を実施した。「なぜ朝食が必要なのか」「なぜ減塩が大事か」「なぜ野菜を摂取しないといけないのか」と「マンガ」構成で表現し、ストーリーの中で大切さを伝えた。調理実習では、時短料理や野菜たっぷりメニュー、減塩料理に取り組み実習後は、食事バランスプレートに主食・主菜・副菜を並べ規則正しい日本型食生活を学び、また、塩分測定器を使い、汁物の塩分濃度をチェックし視覚と味覚でも減塩の大切さを伝えた。</p> <p>全国526地区、623回、17,762名の若者（学生）世代が受講した。</p> <p>5）【成人（働き世代）・高齢世代向け】野菜摂取と減塩講座の開催 定期的な健診をすすめ適正体重の維持と食事チェックを行い、生活習慣病予防のための普及に取り組んだ。成人においては、生活習慣病の一次予防として、「減塩」と「野菜350g摂取」の普及を重点に講習会を実施し、高齢者においては「フレイル（高齢者の虚弱）」を正しく理解させ低栄養予防に取り組んだ。まず、生活習慣病の要因となる肥満を解消するため、BMIの算出とメタボメジャーを使い腹囲をチェックすることで意識付けを行い、適正体重の大切さを伝えた。調理実習では、メタボ予防や野菜不足解消の料理、低栄養予防の料理に取り組んだ。実習後は塩分測定器を使い、汁物の塩分濃度をチェックし視覚と味覚でも減塩の大切さを伝えた。</p> <p>全国598地区、747回、16,655名の成人・高齢世代が受講した。</p> <p>6）【家庭訪問】 家庭訪問における減塩普及活動の成果は大きく、平成27年度に実施した全国家庭訪問調査では、みそ汁の塩分濃度0.8%以下の家庭が8割を占めており、明らかに減塩に対する意識の高まりと実践の成果が見られた。しかし、平成28年度国民健康・栄養調査では食塩摂取量9.9gと依然高いことが発表されていることからさらに若者・働き世代にも拡大しようと未訪問地域を中心に訪問活動を実施した。食生活改善推進員の組織力を活かし、みそ汁の「塩分チェック」と「野菜あと一皿」の必要性を伝え重ねて、高齢者や単身者の孤立化を防ぐために住民とのつながりの機会を多く作り「生きる力」の活力になるように進めた。地域ではピンクのTシャツを着た会員一人が一軒から二軒を目標とし、「塩分測定器」とメタボメジャーを持ち積極的に訪問活動を実施した。</p> <p>全国1,095市町村、151,200軒の家庭を訪問し、イベント等においては 5,437回、139,670名に向け普及活動を行った。</p>		
3. 交付実績額	64,281 千円（A）		
4. 補助金等における管理費			
(1) 人件費	0 千円		
(2) 一般管理費	0 千円		
(3) その他の管理費			
	内容	金額	
		0 千円	
	合計	0 千円	
	合計	0 千円	
5. 外部への支出			
(1) 外部に再補助・再委託等されているものに関する支出			
	支出内容	支出先	金額
			0 千円
			千円
	合計		0 千円（B）
(2) (1)以外の支出			
	支出内容	支出先	金額
	旅費	委員会・講習会旅費	5,016 千円
	消耗品費	講習会材料代他	25,884 千円
	印刷製本費	恒陽社印刷所他	25,337 千円
	通信運搬費	郵便他	3,284 千円
	借料及び損料	貸会場業者等	4,760 千円
			千円
	合計		64,281 千円
6. その他			
	内容	金額	
		0 千円	
	合計	0 千円	
7. 再補助・再委託等の割合	0.0%（B/A）		

（注）千円未満の端数は四捨五入しています。